CPD 申請中

シンポジウム
遠郊外住宅団地の再生を考える
―住宅地開発のその後の動向を追う　その２―

少子高齢化・人口減少時代の現代において、高度経済成長期に合わせて開発された住宅団地の抱える問題は大きい。特に都心から40～50km離れた遠郊外地域ではより深刻な状況が予想されよう。当シンポジウムでは、遠郊外地域に該当する茨城・埼玉・神奈川のUR団地等を対象に、それらの現状報告と、「ストック再生」「住宅団地のライフサイクル」「コミュニティ」をテーマに討論し、遠郊外住宅団地の未来を探る。

コメンテータ

小林秀樹（千葉大学教授）
間瀬昭一（UR 都市機構）

事例紹介

羽原康恵（NPO 法人取手アートプロジェクトオフィス）
秦野拓也（NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎）
有友フユミ（NPO 法人お互いさまねっと公田町団地）
小場瀬令二（筑波大学名誉教授）

司会

片山律（千葉工業大学）

プログラム

14:30　受付開始

15:00　シンポジウム開始

①主催者挨拶・趣旨説明

稲見成能（前橋工科大学）

②事例紹介

・取手アートプロジェクト（羽原氏）

・茅ヶ崎市浜見平団地（秦野氏）

・横浜市公田町団地（有友氏）

・茨城県阿見町の住宅地開発（小場瀬氏）

③討論、質疑応答

17:30　シンポジウム終了

取手アートプロジェクト（TAP=Toride Art Project）は、1999 年から市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同で行っているアートプロジェクトである。若いアーティストたちの創作発表活動を支援し、市民に広く芸術とふれあう機会を提供することを目指している。主要事業として取手在住作家の活動紹介や壁画プロジェクト等を、市内の団地等を活動地域として行っている。

茅ヶ崎市浜見平団地は、老朽化による建て替えを行う際に、地区全体のまちづくり計画を策定した上で整備が進められてきた。2015 年 4 月には地区内の複合施設「ハマミーナ」に「まちスポ茅ヶ崎」がオープンし、地域や世代間の交流の場や機会を提供し、住民の自発的な活動を支援し、豊かな環境と景観の形成及び持続可能なコミュニティづくりを進めている。

横浜市公田町団地は、33 棟 1,160 戸の UR の賃貸住宅団地であり、築 40 年が経過し住民の高齢化が進んでいる。この団地では、住民を中心に団地の見守りと支え合いの体制をつくるため、2009 年に「NPO 法人お互いさまねっと公田町団地」を設立し、空き店舗を活用した多目的拠点「お互いさまねっといこい」を整備し、交流サロンや介護予防事業等の取り組みを行っている。

茨城県阿見町における住宅地開発は、「阿見町ガーデンシティ湖南」のように戸建住宅の分譲が完了し、住民が居住している地区がある一方、分譲途中の地区や、土地区画整理事業が滞っている地区もみられる。このような中、荒川本郷地区では地区計画（まちづくりガイドライン）を策定し、緑豊かな地域の特性を生かした整備が進められている。

日時：2017 年 2 月 28 日（火）　15:00～17:30

場所：日本大学理工学部　1号館3階134教室　（東京都千代田区神田駿河台 1-8-14）

参加費　（資料代含む）
会員　1,000 円
会員外　1,500 円
学生　無料

主催：　日本建築学会　関東支部　都市計画専門研究委員会
協賛：　未定

〇問い合せ先：　日本建築学会関東支部　事務局 TEL：03-3456-2050　　メール：kanto@aij.or.jp

事前の申込み受付は終了いたしました。当日会場2階の受付にて先着順で受け付けます。